

## 令和7年度 キッズフロンティアV番館(保育所等訪問支援)自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日			

### ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先での観察を通じてお子さまの集団参加における強みを見つけ、その力を活かした支援提案を大切にしています。	困り感だけでなく「できていること」「伸びていること」にも焦点を当てた観察と報告を意識的に行っています。	強みに着目した支援の視点を訪問先スタッフとも共有し、肯定的な関わりが広がるよう働きかけを強化します。
2	保護者が抱える不安や疑問を丁寧に受け止め、訪問支援を通じた変化や成長を分かりやすく伝えることを心がけています。	保護者との信頼関係を基盤に、家庭・訪問先・事業所が一体となった支援チームとしての連携を実現しています。	保護者向けの情報提供内容を充実させ、訪問支援の意義や効果をより具体的に伝えられる工夫を重ねます。
3	小規模な体制を活かし、担当者間の連携が密で、ケースの情報共有や方針確認が迅速に行える環境があります。	少人数だからこそ一人ひとりのケースへの関与が深く、きめ細やかな対応と柔軟な調整が可能になっています。	小規模の強みを維持しながら、業務の標準化を進めることで、スタッフ追加時にも質を落とさない体制を整えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ数が限られているため、担当者の休暇や急な対応が必要な際に代替が難しく、業務継続に不安が残る。	特定のスタッフへの依存度が高く、その方が不在の際に支援の質や連絡の対応に影響が出やすい構造がある。	複数スタッフが各ケースの概要を把握できるよう情報共有を徹底し、誰でも対応できる体制の底上げを図る。
2	訪問先との連携において、定期的な情報交換の場が設けられておらず、必要時のみの連絡になりがちである。	日常的な関係構築の機会が少ないため、急な相談や情報共有の際にスムーズに動けないことがある。	訪問先ごとに定期連絡のサイクルを設定し、関係が途切れないうよう継続的なコミュニケーションの仕組みをつくる。
3	訪問支援に関する社内研修や事例検討の機会が少なく、スタッフ個々のスキルアップが自己学習に頼りがちである。	少人数のため外部研修への参加も限られやすく、新しい支援手法や知識の取得が後手に回る場合がある。	他事業所との合同事例検討や外部講師を招いた研修を計画的に実施し、チーム全体の専門性を高める機会を確保する。